

地域とともにつなぎあい
患者とともに歩む医療

病院だより

第151号
2023/8/15

『なりたい自分になる』～小学校での講演を通して～

先日地域の富士見小学校6年生のキャリア教育の一環で「なりたい自分になる」というテーマで理学療法士としての仕事の講演をしてきました。

内容としては、理学療法士という仕事は大変なこともあるけれど患者さんから直接「ありがとう」と言ってもらえる、とてもやりがいのある仕事、ということなどを話しました。



座学はそこそこにして、講演の後半は実際に普段使っている道具の体験をしてもらいました。松葉杖や装具などは普段目にしたことはあ

っても体験したことはない子ども達がほとんどでしたので、実際に装具を装着すると「不思議な感じ!」と目を輝かせ、「僕も私も!」と積極的に体験に参加してくれました。打腱器を使った腱反射を体験した子ども達は実際に反射が出ると「おー!」と歓声が上がり、興味津々な様子でした。

講演後の感想文の中では、「自分も人を支える人になりたい」などの感想があり、自分の今回の講演が少しでも子ども達の将来のためになり「理学療法士になりたい」と思うきっかけの一助となればと、この機会に喜びを感じました。また、同時に「もっと胸を張って仕事ができるよう、これからも絶えず努力していこう」と

自分自身、気が引き締まる思いでした。

当日、同行した新入職のセラピストは、講演前は「上手くできますかね・・・」ととても緊張していたのですが、講演が終わってみると表情は晴れやかで、「とてもいい経験でした!!」と仕事に対する自信につながったようでした。

このような活動を通じて地域の皆さんに『理学療法士』という職業や当院のリハビリを少しでも知ってもらえたら、と思います。

理学療法士 松浦 陵平



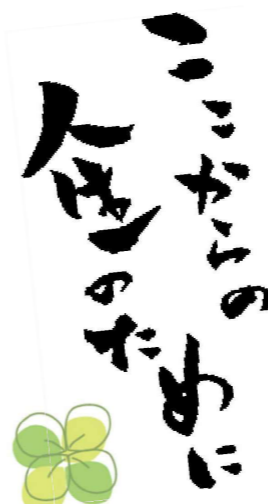
「その人らしい生活」のために 一人ひとりに寄り添う ～作業療法士の仕事って?～

作業療法士は脳卒中や骨折等で、心身機能が障害を受け、食べることやトイレに行くこと、日々の仕事や趣味、家での料理や洗濯など、普段何気なく行っている生活動作の一部が難しくなっている人を対象に作業療法を行います。

作業療法では人の日常生活に関わる全ての活動を「作業」と呼び、その人にとって大切な作業に焦点を当てます。もちろん同じ人は一人もいません。その人がその人らしく健康や幸福を感じられるように、一人ひとりに寄り添います。

作業そのものを習得したり、回復の手段として作業を行いながら、基本的な動作能力・着替えや家事などの応用動作能力・地域活動や就労などの社会的適応能力に介入します。

「その人らしい生活」を目標に、こころと身体のリハビリを行います。このような仕事ですので実は、AI やロボットに変わる事のできない職業として、世の中に数多くある職業の中で、6位に選ばれた事もあるんです。



私たちの仕事は医療、福祉、介護の領域をはじめ、保健、教育、労働、司法などへも広がり、予防的な働きかけや社会復帰の支援、学会での教育支援など、幅広い役割を担っています。

当院の作業療法士は豊富な設備と経験を活かして、様々な観点から、リハビリテーションを実施します。

私は14年この仕事をしていますが、毎日が勉強、試行錯誤の日々です。しかし、やりがいも多くあり大変素敵な仕事だと思っています。

作業療法士 山本 紘平



↑患者さんからの「ありがとう」のメッセージと手作品

患者さんのこころと身体に寄り添えるように作業の振り返りを行います



患者さんと一緒に育てる植物がすくすく育つようにお話しします



～見えないところでも私たちは寄り添っています～

困ってませんか？ 突然の『こむら返り(有痛性筋けいれん)』

作業療法士 上田 健・理学療法士 本田 圭吾

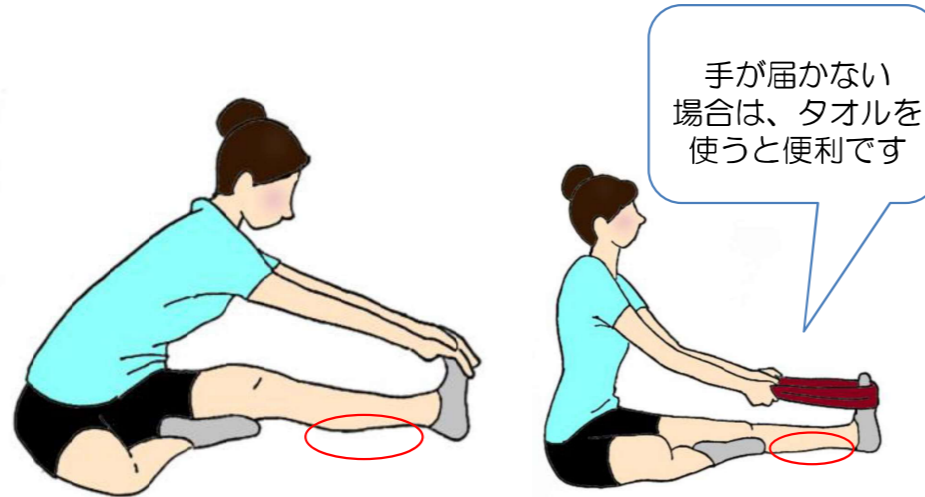
◎こむら返り(有痛性筋けいれん)とは…

突然の不随意的な筋肉の収縮で「有痛性筋けいれん」と呼ばれます。筋肉が過度に収縮したまま硬直し、元に戻りにくくなる状態で、症状には筋肉の痛み・けいれん等があります。寝ているときに起こりやすく、高齢者や女性に多いと言われており、加齢・運動不足・冷え・水分不足・ミネラル不足等が原因と考えられています。

【応急処置方法】 膝を伸ばして、ふくらはぎの筋肉をのばします

座位

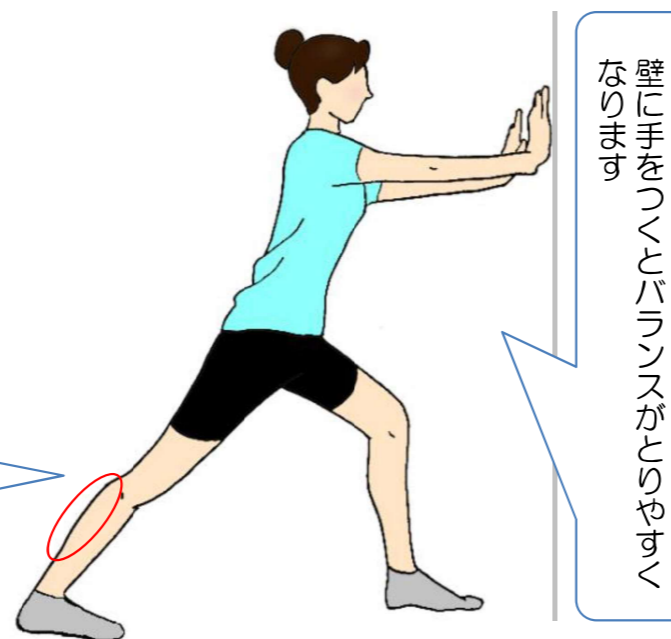
- ①膝を伸ばして、座ります
- ②伸ばした方の、ふくらはぎの筋肉をのばします



立位

- ①片方の足を前に出して
- ②もう一方の足を後ろに引いて
- ③前に出ている足の膝を深く曲げて、後ろの足のふくらはぎ全体がピンと伸びるようにします

両足の幅が広い、または前の膝を深く曲げるほどストレッチの効果が大きくなります。



【予防方法】 普段から適度な運動やストレッチを行う、暴飲暴食を控える、水分をこまめに摂る、ビタミンやミネラルを適切に摂取する等。こむら返りを慢性化させないためには、日常生活を見直し、予防していくことが大切です。

※慢性的に症状が続く場合や異変を感じた場合には、かかりつけ医にご相談ください。

©2023医療法人華生会 琵琶湖中央リハビリテーション病院

出前講座

お茶の間教室「はつらつサロン」

◎平野学区健康フェスティバルに参加してきました◎

1月に引き続き6団体が参加する平野学区健康フェスティバルに参加してきました。今回も120人超の地域の皆様のご参加があったとのことで、当院のブースでも楽しい空間が繰り広げられていました。

「楽しもう」が合言葉の私たちは、もちろん今回も全力投球。ご参加の方と、たくさん笑ってたくさん話して、当院ならではの数々の体操講座を通して汗だくで楽しみました。

今回は「膝・肩・腰の簡単体操」「楽しみながらの認知症予防体操」「おうちでできるタオル体操・脳のトレーニング」の他に、先日デビューを果たした、地域の方々との協同作業、

お手玉を使った「お手玉レクリエーション」もお目見えして当院のブースは華やかになりました。

今回、理学療法士・社会福祉士の出向でしたが、地域の皆さんからのリハビリ相談・医療福祉相談を受け「私たちが地域の皆様のお役に立てること」の再認識ができるひとときでもありました。

理学療法士 本田 圭吾・小西 純平
社会福祉士 上嶋 美由紀



【病院理念】

慈(めぐみ)の源“マザーレイク”のように、私たちは地域の皆さまの心と体のよりどころとなるよう努めます。

【基本方針】

1. すべての職種が協働し、生活を支えるリハビリテーションの実践に最善をつくします。
2. 患者の意思を尊重し、科学的根拠と倫理観に基づき、安全と安心の医療を提供します。
3. 医療・介護・福祉連携を推進し、地域包括ケアシステムの推進に貢献します。
4. すべての職種のたゆまぬ研鑽により、質の高いチーム医療をめざします。
5. 人材の育成に努めるとともに、職員が働きがいと充実感の持てる職場づくりをめざします。

♪あしあと♪

サロンの世話人のAさんは、長年、卓球をしておられます。いつも背中がすっと伸び、颯爽と歩かれる姿は見ていて格好がよく、あこがれてしまいます。思わず真似して、先日、卓球に挑戦したところ筋肉痛で肩が上がらず、ますます猫背になってしまいました。何事も継続ですね。(健康福祉事業課)

琵琶湖中央リハビリテーション病院 滋賀県大津市御殿浜22-33 ☎(077)526-2131(代)

©2023医療法人華生会 琵琶湖中央リハビリテーション病院



琵琶湖中央リハビリテーション病院は 病院機能評価

「高度・専門リハビリテーション（回復期）」 の認定を得ました



当院は本年2月13日から15日まで3日間かけて、日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審しました。その結果、リハビリテーション病院としての機能評価の認定更新と共に、最重要課題であった回復期リハビリテーション病院としての高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」の認定を新たに受けました。



病院機能評価とは、地域の皆さんに、適切かつ質の高い医療を安心して受けていただくため、またその質の一層の向上を図るため、病院の医療機能を科学的・専門的な見地から第三者の中立的な立場で専門家に評価していただき、その結果得られた課題を改善する目的で実施されるものです。当院は2017年に病院機能評価（リハビリテーション病院）を受審し認定を受けております。従いまして、当院は回復期リハビリテーションに特化した病院としての評価を得て、質の高い、安心・安全な医療を提供すべき病院として努力して参りましたが、これからは、「高度・専門機能リハビリテーション（回復期）」の評価認定を受けて、さらに質の高い、かつ安全で安心な医療をさらに推し進め、信頼と納得のいただける医療を実践して行かねばならないと身の引き締まる思いでおります。

今回の病院機能評価の受審にあたっては、すでに獲得している回復期リハビリテーションに特化した病院としての認定更新はもちろん、「高度・専門機能リハビリテーション（回復期）」の評価獲得を最重要課題とし、昨年2月から受審準備を始め、コロナ対策にも大きなエネルギーを使わねばならない中で、職員一丸となって、病院の設備、機器、機能をさらに整備してきました。日本医療機能評価機構から派遣されたサーベイヤー（審査員）の皆さんは、医師、看護師、療法士、病院事務の視点から、院内のすべての部門を細かく視察し、膨大な書類に目を通し、診療録をもとに実施された医療、看護、リハビリテーション等の評価を対面で行い、設備、システム、運用などを巡って、様々な好評価点、改善点などを指摘いただきました。これに対して、当院は見せにくい部分を糊塗することなく、背伸びせず、等身大の当院の現状を審査いただく姿勢で臨んでいました。

高度・専門機能リハビリテーションの審査については、現在入院中の患者さんをモデルにして、この患者さんのこれからのリハビリテーションを軸に、退院へ向けての課題をその場で

与えられ、患者さんを中心に集まっている多職種チームがその課題を巡ってカンファレンスをするという、私ども職員の力量や病院内の多職種連携の実情を実際のサーベイヤーの前で提示する、斬新な直接評価法が行われました。回復期リハビリテーション病院において医師、看護師、療法士、社会福祉士、管理栄養士、介護福祉士、薬剤師、その他関連職種の多職種連携は急性期と在宅を結ぶ上で必須のシステムであることから、このような評価法が重要なことを改めて痛感しました。

回復期リハビリテーション病院として機能評価機構から認定を受け5年が経過し、当院の立ち位置にもう一つ曖昧さを持っていましたが、今回の機能評価では、前回の評価を大きくしのぐ高評価が得られております。このことは当院が前回の機能評価から現在に至るまで、回復期リハビリテーション機能をさらに高めるべく、不断に努力を重ねてきた職員全員が築き上げ、私どもの手法が正しかったことを示すものです。さらに今回挑戦しました高度・専門（回復期）においても好評価のもと認定を受けられたことで、当院の地域における役割が明確になったと考えております。大津圏域を超えて滋賀県の回復期リハビリテーションをリードし支えてゆくことが我々の役目だと、現在でははっきりと実感しております。病院機能評価において、今回好評価を得たことは素直に喜びたいと思います。1年を超える準備期間に当院の職員全員が、多職種連携の旗のもと、一致協力して成果を出してくれましたし、この間の個々の職員自身の成長も自覚できているものと思います。この好結果を真摯に、謙虚に受け止め、有能な全職員と共に、さらに地域に貢献できる病院づくりに取り組んでいきたいと考えております。

今後も、当院はより一層の発展を目指し、高い理想を抱いて、患者さんがさらに安心して治療に取り組めるような医療サービスを提供してまいります。そして、地域の方々から愛される病院であるために、地域の皆様とのコミュニケーションをこれまで以上に大切に、地域医療に貢献できるような取り組みを積極的に行ってまいります。

今後とも、当院をご支援いただけますよう、心よりお願い申し上げます。

病院長 大野 辰治



～地域とともにつなぎあい 患者とともに歩む医療～



医療法人幸生会

琵琶湖中央リハビリテーション病院

Biwako Central Rehabilitation Hospital